

「七五三のいわれ」

日本に古く（平安時代）から伝わる「七五三」。11月15日前後、神社の境内は祝着で着飾った子ども連れの家族で賑わいます。

七五三の祝いは縁起の良い数字とされる奇数の年に、氏神様やお寺にお参りする習わしです。

7歳の祝いが終わると人間社会の一員として認められ、子どもの健やかな成長への感謝と儀礼の両面からお祝いしたのです。そして今日まで続いています。

成長の節目にお祝いできるというのは、本当に有難いことですね。

参考：『季節を楽しむ行事と食事』（食べ物文化編集部・芽ばえ社）



季節の行事やお祝いの場などで、家族の幸せや健康を祈って食べる料理のことを「行事食」といい、日本では毎月、各地域で何かしらの「行事食」が食べられています。世界の中でも、日本は「行事食が多い国」だそうです。四季折々の自然を愛で、感謝しながら生活できる日本人であることが嬉しいですね。

そして、食べることは体の栄養素であるとともに「心の栄養素」といわれています。きっと誰にでも「これを食べると、あの時の嬉しかった体験を思い出す」食べ物があるのではないのでしょうか？

「心の栄養素」があれば、子どもが成長する中でくじけそうになった時にも“乗り越える力”になるかもしれませんね。

私にも孫が生まれ、この年になって「四季折々の行事を楽しむことの大切さ」をより一層感じるようになりました。生活に彩りを与える日本の習わしを、次の世代に繋げていきたいと思うこの頃です。



（今月の担当 ワーカーN）